

室蘭民報

The Muromin Press



なんと、
驚異の
三万発！

三

万

発

日本最大級

※

室蘭

満

天

開

催

2025年9月6日(土)
10:00 - 23:00

室蘭市だんパラ特設会場
(室蘭市香川町224-1)

そんな チャレンジを 今ここから。

室蘭だから、

室蘭満天

花火

が、2025年9月6日に初開催される室蘭市のどんぱら公園を会場に、北海道内で最大級となる約3万発の花火が打ち上げられる一晩に、音楽フェスティバルなど一体となった最新の風物詩として、市の内外から大きな期待が寄せられている。

開催まで1年となったタイミングで、青山剛室蘭市長、野田龍也株式会社室蘭民報社代表取締役社長、上村正人DENZAI株式会社代表取締役社長がイベントへの想いや室蘭のこれからについてホンネで語り合った。

——「室蘭満天花火」の開催に至ったきっかけを教えてください。

上村 2025年に室蘭民報社さんが創刊80周年を迎えるということで、野田社長と皆さんの記憶に残るようなことをやってみようという雑談をしたのがすべての始まりです。室蘭民報社さんはむろん港まつりのメイン行事となる花火大会を長年開催していたので、それをさらにグレードアップできたらいいなと考えたんです。

野田 どうせやるなら、全国一の花火大会として室蘭の名をとろかせたいといった気持ちがありました。北海道では他のまちでも有名な花火大会が開催されていますが、負けたくないの凄みのある体験をお届けしたいと思っただけです。

やはり花火ならではの、美しい光と迫力に満ちた音の響演、あの風景はいつも記憶に残るものですし、あらためて室蘭のまちを思い出し、刻まれるような特別な時間を過ごしていただきたいかったです。

青山 新たな産業創出の動きなどいろいろと室蘭にチャンスが来ている中でこのように催しが行われることを聞いて、私自身とても楽しみに気持ちになりました。今後のまちづくりを考える上で、後押しとなる大きなパワーやヒントを得られるのではないかと思いますね。

北海道で 最大級の 花火大会

——「室蘭満天花火」の基本コンセプトや特徴はどのようなものですか。

上村 まずお伝えしたいのが、約3万発の花火が上がる。

これは相当インパクトのある数字ではないでしょうか。さらに花火だけではなく、特設ステージでの音楽、フェスティバルや地元グルメの出店、遊園地スペースの設置などの準備も進めています。

花火にプラスして、目で複数のエンターテインメントを楽しめるような複合的なイベントは、全国でも珍しい形式だと思っています。

室蘭には大きな遊園地がなかったり、ライブも選出しないという見に行けないという現状があります。

地元で全部楽しむことができれば最高ですし、今までのようなイベントにはなかったんです。

野田 会場となるどんぱら公園は、市民が深い愛着を持っている室蘭岳に位置しています。夏はキャンプ場、冬はスキー場と広く親しまれており、これを契機に秋の花火大会も定着していったらいいですね。

上村 どんぱら公園はスキー場があるのに珍しい構造で、日光の当たる南側に向けていて海を見下ろすようなイメージなんです。

火を眺める。周りに何も余計なものがないからこそ、自然の美しさを存分に味わっていただけたらと思います。

ドーンと

上がったら、より一層きれいに見えるんじゃないかな。

風の通りもよいので煙も溜まらずに空気も澄んでいて、花火の会場としては最適かもしれませんね。

——「室蘭満天花火」によって、まちもさらに活気づいていくと思います。最近の室蘭については、率直にどのようなお感じでしょうか。

青山 2022年に市制施行100年の節目を迎え、ブランドマークの作成やサントリーサインの更新に取り組みしました。

その時も地元の学生を含む市民の皆さんに参加していただいたのですが、最近特に若い世代の人たちが自らイベントを立ち上げる、実行することが増えていると思います。

やっぱり自分たちが動けばいろいろできるんだという、そういうムードメントが少しずつ起こってきている、その姿に大きなパッションが今回の花火大会であると認識しています。

これまでは室蘭のイベントといえば、市や観光協会が主導するという傾向があったのですが、市民の間で草の根的な活動が次々と生まれていてとても心強いです。

野田 私は室蘭生まれ室蘭育ちで、長年ずっとまちの流れを見てきました。その中で感じるのがどこかに諦めの部分があります。

だからそういうマインドを脱するためにも、市や民間企業が積極的に動いて何かをやらなきゃいけない。ものづくりのまちとして歩んできた創造心というベースはあるわけですから、多少のリスクを背負ってでも高い壁を越えるためのチャレンジをしていく。

若い方々にはそんなスピリッツが芽生えつつあるのではないかと思いますし、「室蘭満天花火」に触れることで「自分も何かできるんじゃないか」とモチベーションを得てもらえたら本当に嬉しいですね。

上村 自分たちはクリーンの事業をメインに行っているのですが、室蘭は規模なプラントがあつてニーズの多い場所であり、何より発祥の地である大切な故郷です。

今こそグローバルに企業展開をしていますが、原点はやはり変わらず室蘭。このまちで自分たちがチャレンジを積み重ねて、ここまで事業を拡大させてきました。

挑戦の 起爆剤

となるような存在であってほしいと思います。まちの観光や飲食をはじめ、さまざまな業界の方々とともにイベントを創りあげていきたいですし、「ツアー」を組みたい「メニュー」を出したいなど新しいチャレンジの場としてどんどん活用していただけたら理想的ですね。

——地元の人だからこそわかる、室蘭の魅力はありますか。

青山 室蘭出身で帰ってきた人がよくおっしゃるんですけど、自然と人工物がかけ合わせられた美しさっていうのは本当にかけがえのないものだと思います。

自然美と 人工美

ただ、ずっと地元にいると意外とその良さに気づけなかったりするんです。15年くらい前から工場夜景がブームになっていますが、地元では当たり前なので特別だと感じなかったりするんです。

がベストマッチしている情景は、他のエリアにはない室蘭の大切な資産です。

野田 室蘭のソルファードといえば、室蘭やまきとりとカレラメーン。歴史と伝統がある、全国に誇れる自慢のメニューですね。

室蘭には老舗の美味いお店が多く、さんあるので、風景を楽しんだら、食歩きもおすすめしたいです。

上村 「室蘭満天花火」もある意味で自然美と人工美という室蘭らしさの象徴かもしれません。

打ち上がる花火に海と山の雄大な雰囲気も溶け合っていて、ここでしか見られないような景色になればいいなと思いますね。

——最後に、メッセージをお願いします。

野田 まちづくりは、諦めないことから始まります。「室蘭満天花火」は市民の皆さんがもっと前向きに、気持ちを盛り上げていける大きなチャンスだと考えています。

だからこそ持続的に開催しなくてはならないし、いろいろな人の知恵をお借りしながら、室蘭に未来を根づくイベントに育ってほしいです。

上村 水素や洋上風力発電のビジネスなどで、室蘭を訪れる方も増えています。その人たちにも「室蘭満天花火」を通して、室蘭というキーワードを刷り込んでいきたいです。

新たな企業誘致にもつながるかもしれませんし、やはり企業も元気なまちに進出したはずですから、市民の皆さんにもやればできるという姿勢を間近で感じてほしいです。

そうすれば、室蘭がさらに活気づいていくと思います。

DENZA株式会社
代表取締役会長
上村正人

創業発祥でクレーン業界をリードするDENZAグループの経営に携わりながら、地域貢献活動にも積極的に取り組む。地元で頑張る若者たちに、「自分たちが動けばできる」という信念を受け継いでいってほしいと考えている。

室蘭市長
青山剛

2002年に室蘭工業大学助手となり、2003年に室蘭市議会議員に。2011年に室蘭市長に就任し、現在4期目。市制施行100年を迎えた室蘭市で、市民とともに新時代のまちづくりに力を入れている。白鳥大橋が大好き。

株式会社室蘭民報社
代表取締役社長
野田龍也

「むろみん」の愛称で市民に親しまれる室蘭民報社で、地域密着型の紙面づくりに従事してきた。室蘭のことなら、どんな小さな話題でも伝えていきたいという姿勢は今も変わらない。



室蘭満天花火の最新情報は、
公式ホームページにて随時更新中。
[manen-hanabi.com]

